

## 洪水はん濫シミュレーション結果の公表について

～『明治43年洪水から100年』～

本年は、北上川全域において大きな被害をもたらした明治43年洪水から100年の節目にあたります。特に、盛岡市街地においては明治43年9月3日に甚大な被害が生じるなど、当災害を契機に北上川における本格的な治水対策が始められるに至っています。

岩手河川国道事務所では、100年目の節目において、北上川上流域における治水対策を振り返り、治水事業の進展に伴う市街地の保全状況について、明治43年洪水規模イメージした洪水はん濫シミュレーションを実施しました。計算結果については、流域住民の防災意識の向上を願い、明治43年洪水で特に甚大な被害を受けた盛岡中心市街地を対象とした動画として事務所ホームページに掲載しましたのでお知らせします（※）。

※ <http://www.thr.mlit.go.jp/iwate/bousai/sonae/kouzuihanran/index.htm>

### 【参考】

- ・ホームページで新たに掲載する動画の内容について、別紙1にて解説します。
- ・岩手河川国道事務所の管理区間にかかる洪水はん濫シミュレーション結果については、事務所ホームページ（※）において「時系列洪水はん濫シミュレーション」として既に公表されています。

※ <http://douga.thr.mlit.go.jp/kasen/hanran/iwate/kitakami.htm>

〈発表記者会：岩手県政記者クラブ〉

### 【問い合わせ先】

国土交通省 岩手河川国道事務所

TEL：019-624-3166

河川副所長 瀧澤 靖明（内線204）

調査第一課長 鈴木 啓介（内線351）

## 動画の概要

- 当シミュレーションは、北上川上流域における治水対策の進展によりどのように地域が守られてきているかについて、明治 43 年洪水と同程度の出水を想定して整備段階毎に計算したものです。
- 計算条件について
  - ・ 支川等の内水はん濫については反映されていません。
  - ・ 堤防の決壊については考慮されていません（※）。
  - ・ 上記などにより、実際の洪水時にはここに示した範囲以外でも浸水する可能性があります。
  - ・ 降雨条件は、盛岡市上流域において 2 日間に 226mm（1/150 確率規模）としています。



図 1 昭和 40 年代頃までの状況

- ・ 戦後から市街地対策を中心とした堤防整備が進められました。
- ・ これによる被害軽減はみられるものの、三川合流点を中心に広範囲ではん濫している状況がみられます。



図 2 昭和 40 年代から 50 年代の状況

- ・ その後、昭和 40 年代には北上川上流に四十四田ダムが完成しました（昭和 43 年）。
- ・ 三川合流点下流における浸水想定範囲が大幅に縮小している状況がみられます。



図 3 昭和 50 年代以降（現在）の状況

- ・ 昭和 50 年代には雫石川上流に御所ダム、中津川上流に綱取ダムが完成しました（昭和 56 年、57 年）。
- ・ 三川合流点下流における浸水がみられなくなり、中津川における浸水範囲も縮小している状況がみられます。

- ・ 近年の北上川では、平成 14 年、平成 19 年に比較的大きな出水がありました。平成 19 年の出水は盛岡中心市街地上流域における戦後最大規模の降雨となりましたが、これまでの治水対策の効果により、幸いにも盛岡中心市街地における大規模な浸水被害はみられませんでした。
- ・ 北上川上流域においては、これまで流域全体に効果のあるダム整備事業や市街地対策としての堤防整備が中心に進められてきました。近年では、一関遊水地事業及び胆沢ダム事業に加え、平成 14 年、平成 19 年に家屋浸水被害を受けた地域における堤防整備事業などを進めています。

※ 堤防の決壊を考慮した場合は、上記によらずより広範囲に浸水することが想定されます。下記ホームページを参照ください。

<http://www.thr.mlit.go.jp/iwate/bousai/sonae/sinsuisoutei/index.htm>